

授業科目	子ども音楽療育実習				実務家教員担当科目	-					
単位	1.	履修	選択	開講年次	2	開講時期	後期				
担当教員	藤田 稔子										
授業概要	<p>実際に障害のある子どもたちと触れ合いながら「こども音楽療育概論」「こども音楽療育演習」を踏まえた実習をおこなう科目です。</p> <p>本科目では、今現在の子どもたちを取り巻く状況に即した実践を重ねていきます。受講生自ら地元保育現場と直接かかわる中で課題を見出し、音楽療育活動を展開するためのプログラムを導き出し実施します。さらに振り返りは現場の先生方のコメントもいただきながら、学びを深めます。</p>										
授業形態	実習			授業方法	学外実習						
学生が達成すべき行動目標											
標準的レベル	<ol style="list-style-type: none"> 1. 対象児（実際に自分がかかわった児）について、療育のニーズも含め、説明ができる 2. 療育的音楽活動を展開することによって、対象児の変化を捉えることができ、実習記録に記載できる 3. 療育的音楽活動を対象児のニーズに即した内容で実施できる 4. 自身の療育的音楽活動を考察できる 										
理想的レベル	標準的レベル1~4の全てを達成したうえで、自分で更に調べ学習等で内容を深め、詳細かつ丁寧に説明ができる。また、これらのことを机上の学修に留めず、実践を繰り返す毎に技術が磨きあげられている。										
評価方法・評価割合											
評価方法		評価割合（数値）				備考					
試験											
小テスト											
レポート											
発表（口頭、プレゼンテーション）		40%				音楽療育実践の内容					
レポート外の提出物		20%				実践振り返りシート					
その他		40%				各回の取り組みが蓄積されるポートフォリオ					
カリキュラムマップ（該当 DP）・ナンバリング											
DP1	-	DP2	-	DP3	-	DP4	-	DP5	○	ナンバリング	CH31325J
学習課題（予習・復習）										1回の学習目安 （時間）	
（予習）次回授業への準備を整える										1	
（復習）ポートフォリオを作成する											
授業計画											
第1回	<p>テーマ：オリエンテーション（山路・藤田）</p> <p>授業の進め方および実習について説明し、今回実習をさせていただく施設について、グループで調べ、施設や対象児の特性をアセスメントしていきます。</p>										
第2回	<p>テーマ：音楽療育実践の企画立案（山路・藤田）</p> <p>それぞれの実習先の提示された時間内でのセッションについて、プログラムの立案をすすめます。</p>										

第3回	テーマ：音楽療育実践の準備（山路・藤田） グループ毎にプログラムを立て、具体化させます。
第4回	テーマ：音楽療育実践の準備（山路・藤田） グループ毎にプログラムを立て、具体化させます。
第5回	テーマ：音楽療育実践の学内リハーサル（山路・藤田） リハーサルを実施して内容を検討します。
第6回	テーマ：音楽療育実践の学内リハーサル振り返り（山路・藤田） 前回のリハーサルを振り返り、気づきを話し合いながら内容をブラッシュアップしていきます。
第7回	テーマ：音楽療育実践の最終準備（山路・藤田） 各グループからクラス全体への伝達をおこない、セッションの流れを全員で把握します。また、この週以降に実習先との打ち合わせに担当メンバーは参加します。
第8回	テーマ：音楽療育実践（山路・藤田） 実際に実習先に出向き、子ども達に対してセッションをおこなう。（実習先の都合上、時間割通りの時間帯とは限りません。）
第9回	テーマ：音楽療育実践（山路・藤田） 実際に実習先に出向き、子ども達に対してセッションをおこなう。（実習先の都合上、時間割通りの時間帯とは限りません。）
第10回	テーマ：音楽療育実践（山路・藤田） 実際に実習先に出向き、子ども達に対してセッションをおこなう。（実習先の都合上、時間割通りの時間帯とは限りません。）
第11回	テーマ：音楽療育実践（山路・藤田） 実際に実習先に出向き、子ども達に対してセッションをおこなう。（実習先の都合上、時間割通りの時間帯とは限りません。）
第12回	テーマ：音楽療育実践（山路・藤田） 実際に実習先に出向き、子ども達に対してセッションをおこなう。（実習先の都合上、時間割通りの時間帯とは限りません。）
第13回	テーマ：音楽療育実践の振り返り（山路・藤田） セッション風景を撮影した動画を視聴しながら、振り返りを行い、学びを深めていきます。
第14回	テーマ：事後面談（山路・藤田） 面談を通して、各自の実践までの成果と想いを聞き、それぞれの学びを深めていきます。
第15回	テーマ：まとめ（山路・藤田） 各々が進む保育現場を見据えて「こども音楽療育士」としての可能性を考察していきます。
テキスト	「こども音楽療育概論」および「こども音楽療育演習」で用いた教科書、配布されたプリント
参考図書・教材／データベース・	授業で適宜紹介します。

雑誌等の 紹介	
課題に対 するフィ ードバッ クの方法	実践に向けての取り組みは、常に担当教員2名と共に作り上げています。そのため、その都度様々なことに対してフォードバックできていると思っています。
学生への メッセー ジ・コメ ント	<ul style="list-style-type: none"> ・本科目は、実習であるため関連する全ての科目内容の統合です。特に、「こども音楽療育概論」「こども音楽療育演習」「保育内容・表現」「障がい児保育演習」「特別支援教育論（障がい児保育含む）」「音楽の基礎」「こどものうたあそび」「こどものうたと伴奏法Ⅰ・Ⅱ」は十分復習をしていてください。 ・音楽、楽器演奏、こどものうた、こどもの実態に関心を寄せ音楽療育的保育のできる保育者としての資質を磨く努力をしてください。 ・実習先は、異なる特性を持った複数個所を予定しています。それぞれの施設内スケジュールの都合があるため、通常時間割内で行うことが難しいケースが想定されます。その都度連絡しますので、間違わないようスケジュール管理を行ってください。